

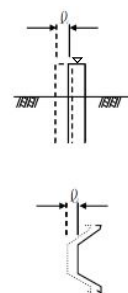
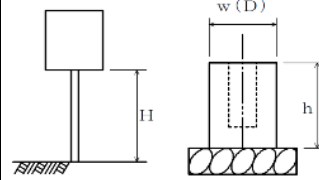
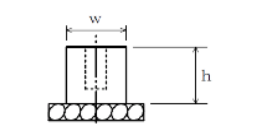
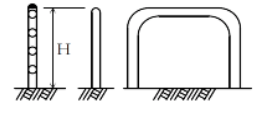
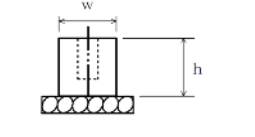
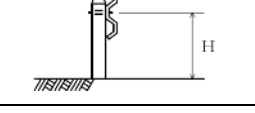
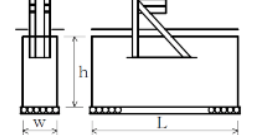
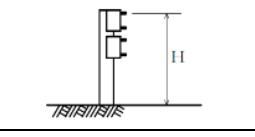
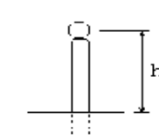
第1編共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第2章 第3節 河川土工・砂防土工	2-3-2	掘削工	基準高 $\nabla$ 法長 $\ell < 5\text{ m}$ $\ell \geq 5\text{ m}$ 延長 L	$\pm 50$ -200 法長-4% -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は掘削部の両端及び中心の3点で測定しその平均値とする。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領 (土工編)」の規定による場合は、設計図書に測点毎、基準高は、道路中心線及び端部で測定する。		
	2-3-3	盛土工	基準高 $\nabla$ $\ell < 5\text{ m}$ $\ell \geq 5\text{ m}$ 幅 $w_1, w_2$ 延長 L	-50 -100 法長-2% -100 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は各法層で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領 (土工編)」の規定による場合は、設計図書に測点毎、基準高は、各法層で測定する。		
	2-3-4	盛土補強工 (補強土 (テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 $\nabla$ 厚 さ t 控 え 長 さ	-50 +0~-50 設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	2-3-5	法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
	2-3-6	堤防天端工	厚 さ t < 15cm t ≥ 15cm 幅 w	-25 -50 -100	幅は、施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。		
第4章 第3節 道路土工	2-4-2	掘削工	基準高 $\nabla$ 法長 $\ell < 5\text{ m}$ $\ell \geq 5\text{ m}$ 幅 w 延長 L	$\pm 50$ -200 法長-4% -100 -200	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領 (土工編)」の規定による場合は、設計図書に測点毎、基準高は、道路中心線及び端部で測定する。		
	2-4-3	路体盛土工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
	2-4-4	路床盛土工	法長 $\ell < 5\text{ m}$ $\ell \geq 5\text{ m}$ 幅 $w_1, w_2$ 延長 L	-100 法長-2% -100 -200	基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「T Sを用いた出来形管理要領 (土工編)」の規定による場合は、設計図書に測点毎、基準高は、道路中心線及び端部で測定する。		
	2-4-5	法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 法の中央で測定。 ※土羽打ちがある場合に適用。		
第3章 第7節 無筋・鉄筋コンクリート	3-7-4	組立て	平均間隔 d かぶり t	$\pm \phi$ $\pm \phi$ かつ最小かぶり以上	$d = D / (n - 1)$ D: n本間の長さ n: 1.0本程度とする $\phi$ : 鉄筋径 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で1箇所以上測定する。 最小かぶりは、コンクリート標準示方書 (設計編13.2) 参照。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については道路橋示方書 (3コンクリート橋編6.6) による。		・重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 ・橋梁コンクリート床版桁 (P C橋含む) の鉄筋については、第3編1-18-2 床版・横組工を適用する。 ・新設コンクリート構造物 (橋梁上部・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状況及びかぶり測定要領」を適用する。 (品質管理項目)

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第1章 第3節 共通の 一般 施工	1-3-4 矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 $\nabla$	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m (測点間隔25mの場合は25m) につき1箇所、延長20m (又は25m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
		根 入 長	設計値以上				
		変 位 $\delta$	100				
	1-3-5 縁石工 (縁石・アスカープ)	延 長 L	-200	1箇所/1施工箇所			
	1-3-6 小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	1箇所/1基 基礎1基毎			
		幅 w	-30				
		基 礎 高 さ h	-30				
		根 入 れ 長	設計値以上				
	1-3-7 防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止 (車止めポスト))	基 礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。		※なお、補修 工事は除く
			高 さ h	-30			
パイプ 取付高 H		+30 -20	施工延長40mにつき1箇所、それ以下の場合は1施工箇所につき2箇所。				
パイプ 根入れ長		-30 +20					
1-3-8 路側防護柵工 (ガードレール)	基 礎	幅 w	-30	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所。		※なお、補修 工事は除く	
		高 さ h	-30				
	ビーム 取付高 H	+30 -20	施工延長40mにつき1箇所、それ以下の場合は1施工箇所につき2箇所。				
	パイプ 根入れ長	-30 +20					
路側防護柵工 (ガードケーブル)	基 礎	幅 w	-30	1箇所/1基礎毎		※なお、補修 工事は除く	
		高 さ h	-30				
	延 長 L	-100	施工延長40mにつき1箇所、それ以下の場合は1施工箇所につき2箇所。				
	ケーブル 取付高 H	+30 -20					
	パイプ 根入れ長	-30 +20					
1-3-9 区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定				
幅 w	設計値以上						
1-3-10 道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。				
1-3-11	コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量	鋼道路橋塗装・防食便覧Ⅱ-74「表Ⅱ.5.5 各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上。	塗料系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。			

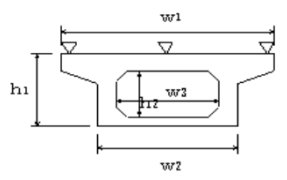
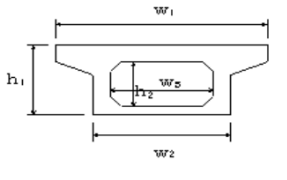
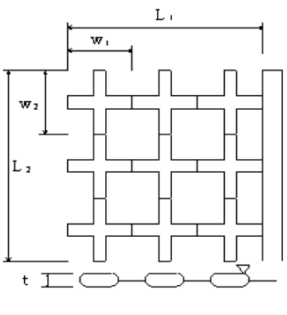
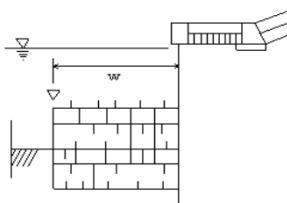
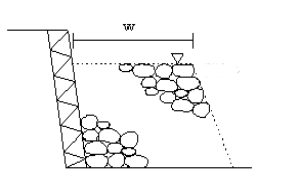
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章 第3節 共通の 一般施工	1-3-12 プレテンション桁製作 (購入工) (けた橋)	桁 長 L (m)	$\pm L/1000$	桁全数について測定する。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表にかえることができ る。 JIS製品以外はJIS製品に準じ る。		規格値のLに 代入する数値 はm単位の数 値
		断面の外形寸法	$\pm 5$			
橋桁のそり $\delta_1$	$\pm 8$					
横方向の曲がり $\delta_2$	$\pm 10$					
1-3-12 プレテンション桁製作 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L (m)	桁 長 L (m)	$\pm 10 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm L/1000 \dots$ $L > 10m$	桁全数について測定する。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表にかえることができ る。 JIS製品以外はJIS製品に準じ る。		規格値のLに 代入する数値 はm単位の数 値
		断面の外形寸法	$\pm 5$			
橋桁のそり $\delta_1$		$\pm 8$				
横方向の曲がり $\delta_2$		$\pm 10$				
1-3-13 ポストテンション桁製 作工	幅 (上) $w_1$ 幅 (下) $w_2$ 高 さ h 桁 長 $\ell$ 支 間 長 $\ell$ 横方向最大タワ ミ	幅 (上) $w_1$	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。桁断面寸法測定箇所 は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに 基づく試験成績表にかえることができ る。 $\ell$ : 支間長 (スパン長 $\rightarrow$ 支間長)		規格値のに代入す る数値はm単位の 数値 注) 新設のコンク リート構造物(橋 梁上・下部工およ び重要構造物であ る内空断面積25㎡ 以上のボックスカ ルパート(工場製 作のプレキャスト 製品は全ての工種 において対象 外)の鉄筋の配 筋状況及びかぶり については、「非 破壊試験によるコ ンクリート構造物 中の配筋状態及び かぶり測定要領」 も併せて適用する
		幅 (下) $w_2$	$\pm 5$			
		高 さ h	+10 -5			
		桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$			
		支 間 長 $\ell$	かつ-30mm以内			
		横方向最大タワ ミ	0.8 $\ell$			
1-3-13 プレキャストセグメン ト製作工 (購入工)	桁 長 $\ell$ 断面の外形寸法	桁 長 $\ell$	-	桁全数について測定。桁断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
		断面の外形寸法	-			
1-3-14 プレキャストセグメン ト主桁組立工	桁 長 $\ell$ 支 間 長 $\ell$ 横方向最大タワ ミ	桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。桁断面寸法測定箇所 は、両端部、中央部の3箇所とする。 $\ell$ : 支間長 (スパン長 $\rightarrow$ 支間長)		規格値のに代 入する数値は m単位の数値
		支 間 長 $\ell$	$\ell \geq 15 \dots \pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
		横方向最大タワ ミ	0.8 $\ell$			
1-3-15 PCホロスラブ製作 RC場所打"ホロスラ"製作工 PC版桁製作工	基 準 高 $\nabla$ 幅 $w_1, w_2$ 厚 さ t 桁 長 $\ell$	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支 点付近)で、1箇所当たり両端と中央部 の3点、幅及び厚さは1径間当たり両 端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編1-18-2 床版・横組工に準ず る。 $\ell$ : 桁長(m)		規格値のに代入す る数値はm単位の 数値 注) 新設のコンク リート構造物(橋 梁上・下部工およ び重要構造物であ る内空断面積25㎡ 以上のボックスカ ルパート(工場製 作のプレキャスト 製品は全ての工種 において対象 外)の鉄筋の配 筋状況及びかぶり については、「非 破壊試験によるコ ンクリート構造物 中の配筋状態及び かぶり測定要領」 も併せて適用する
		幅 $w_1, w_2$	-5~+30			
		厚 さ t	-10~+20			
		桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
		桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1-3-16	P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所 (支点付近) で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 1-18-2 床版・横組工に準ずる。 $\phi$ : 桁長 (m)		規格値のに代入する数値はm単位の数値 注) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外) ) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する	
		幅 (上) $w_1$	$-5 \sim +30$				
		幅 (下) $w_2$	$-5 \sim +30$				
		内 空 幅 $w_3$	$\pm 5$				
		高 さ $h_1$	$+10$ $-5$				
		内 空 高 さ $h_2$	$+10$ $-5$				
	桁 長 $\phi$	$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (\phi - 5)$ かつ $-30\text{mm}$ 以内					
	P C 押し箱桁製作工	幅 (上) $w_1$	$-5 \sim +30$	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 1-18-2 床版・横組工に準ずる。 $\phi$ : 桁長		規格値のφに代入する数値はm単位の数値 注) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外) ) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する	
		幅 (下) $w_2$	$-5 \sim +30$				
		内 空 幅	$\pm 5$				
		高 さ $h_1$	$+10$ $-5$				
		内 空 高 さ $h_2$	$+10$ $-5$				
桁 長 $\phi$		$\phi < 15 \dots \pm 10$ $\phi \geq 15 \dots \pm (\phi - 5)$ かつ $-30\text{mm}$ 以内					
1-3-17	根固めブロック工	基 準 高 $\nabla$	層 積	$\pm 100$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。 1 施工箇所毎		
			乱 積	$\pm t/2$			
		厚 さ $t$	層 積	$-20$			
			乱 積	$-t/2$			
		幅 $w_1, w_2$	層 積	$-20$			
			乱 積	$-t/2$			
延長 $L_1, L_2$	層 積	$-200$					
	乱 積	$-t/2$					
第 1 章 第 3 節 一般的 工 種	1-3-18	沈床工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 150$	1 組毎。		
			幅 $w$	$\pm 300$			
			延 長 $L$	$-200$			
	1-3-19	捨石工	基 準 高 $\nabla$	$-100$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			幅 $w$	$-100$			
			延 長 $L$	$-200$			

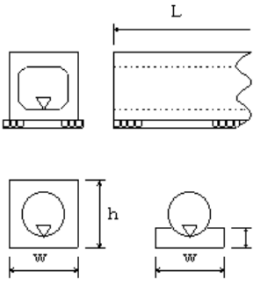
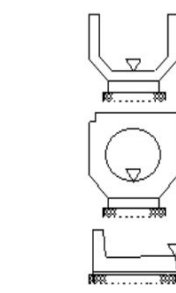
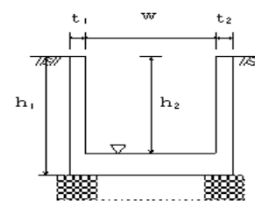
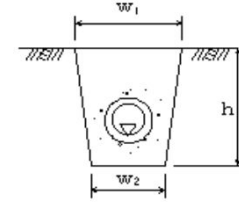
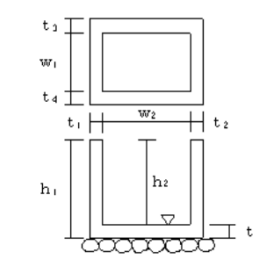
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要											
1-3-22	階段工	幅	w	-30	1回/1施工箇所												
		高	さ	h				-30									
		長	さ	L				-30									
		段	数					±0段									
					±3	全段			立体横断施設に適用 コンクリート打放到適用 その他階段に適用 立体横断施設に適用 コンクリート打放到適用 その他階段に適用								
		け	あ	げ	高	h				±10							
										±30							
										±3							
										±10							
									±30								
1-3-24	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据	付	け	高	さ	舗	装	面	に	対	し	-2~0	両端及び中央部付近を測定。			
		表	面	の	凹	凸	3										
		仕	上	げ	高	さ	舗	装	面	に	対	し	-2~0				
	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高	さ	据	付	け	高	さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の3点。							
			車	線	方	向	各	点	間				差	の	相	対	差
									3								
									2								
									±2								
									±5								
									舗				装	面	に	対	し
	1-3-26	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積)	基	準	高	▽	±500	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
			法	長	ℓ	-200											
延			長	L	-200												
多自然型護岸工 (かごマット)		法	長	ℓ	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。											
		厚	さ	t	-0.2 t												
		延	長	L	-200												
第1章 一般施工	第3節 共通の工種	1-3-27	羽口工 (じゃかご)	法	長	ℓ < 3m	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。									
				ℓ ≥ 3m	-100												
				厚	さ	t	-50										
		羽口工 (ふとんかご、かご)	高	さ	h	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。										
			延	長	L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200			1施工箇所毎								

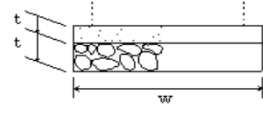
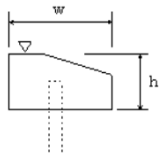
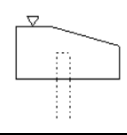
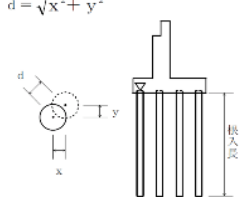
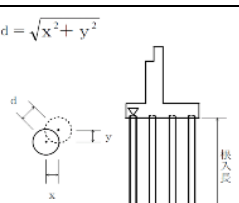
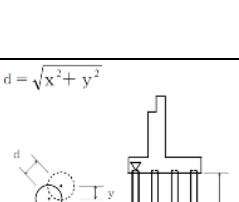
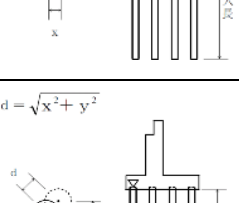
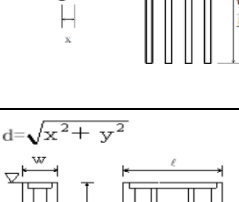
第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
1-3-28	プレキャストカルバート (プレキャストボックス) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。						
		※ 幅 $w$	$-50$							
		※ 高 さ $h$	$-30$							
		延 長 $L$	$-200$				1 施工箇所毎			
		1-3-29	側溝工 (プレキャストU型側溝) (コルゲートフリューム) (L型側溝工) (L型街渠工) (LO型街渠工) (自由勾配側溝) (管(函)渠型側溝) (管渠) 排水構造物修繕工 (プレキャストU型側溝・管(函)渠)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
				延 長 $L$	$-200$				1 箇所 / 1 施工箇所	
				場所打水路工	場所打水路工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ $t_1, t_2$	$-20$			
		幅 $w$	$-30$							
		高 さ $h_1, h_2$	$-30$							
		暗渠工	暗渠工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。)				
				幅 $w_1, w_2$	$-50$					
深 さ $h$	$-30$									
延 長 $L$	$-200$			1 施工箇所毎						
1-3-30	集水桝工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合						
		※厚 さ $t_1 \sim t_4$	$-20$							
		※幅 $w_1, w_2$	$-30$							
		※高 さ $h_1, h$	$-30$							
第1章 第3節 共通の工種	1-3-31	現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定する。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。					

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第4節基礎工	1-4-1 一般事項 (床掘工)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40mにつき1箇所、それ以下の場合は1施工箇所につき2箇所。		
	幅	$-100$				
	一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
厚さ t		$-30$				
延長 L		各構造物の規格値による。				
	1-4-3 基礎工 (護岸) (現場打) 笠コンクリート工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
幅 w		$-30$				
高さ h		$-30$				
延長 L		$-200$				
	基礎工 (護岸) (プレキャスト) 笠コンクリート工 (プレキャスト)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
延長 L		$-200$				
	1-4-4 既製杭工 (既製コンクリート (鋼管杭) (H鋼杭))	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	全数について杭中心で測定。		
根入長		設計値以上				
偏心量 d		D/4 以内かつ 100以内				
傾斜		1/100以内				
	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	全数について杭中心で測定。		
根入長		設計値以上				
偏心量 d		100以内				
傾斜		1/100以内				
杭径		設計径以上				
	1-4-5 場所打杭工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	全数について杭中心で測定。		
根入長		設計値以上				
偏心量 d		100以内				
傾斜		1/100以内				
杭径		(設計径(公称径)-30) 以上				
	1-4-6 深礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	全数について杭中心で測定。		
根入長		設計値以上				
偏心量 d		150以内				
傾斜		1/50以内				
	1-4-7 オープンケーソン基礎	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。		
ケーソンの長さ		$-50$				
ケーソンの幅		$-50$				
ケーソンの高さ		$-100$				
ケーソンの壁厚		$-20$				
偏心量 d		300以内				

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
1-4-8	ニューマチックケーソン基礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					
		ケーソンの長さ	-50							
ケーソンの幅	-50									
ケーソンの高さ	-100									
ケーソンの壁厚	-20									
偏心量 d	300以内									
1-4-9	鋼管矢板基礎工	基準高 $\nabla$	$\pm 100$	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					
		根入長	設計値以上							
		偏心量 d	300以内							
第5節 石・ブロック積(張工)	1-5-3	コンクリートブロック (コンクリートブロック (コンクリートブロック	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。					
			法長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$ -50 $\ell \geq 3\text{m}$ -100						
	1-5-4	緑化ブロック工	厚さ(ブロック (積・張)、石積・ 張)	$t_1$				-50		
	1-5-5		厚さ(裏込)	t				-50		
	延長		L	-200						
	1-5-3	コンクリートブロック (連節ブロック張り)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$				施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			法長 $\ell$	-100						
延長 $L_1, L_2$			-200							
	コンクリートブロック (天端保護ブロック)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。						
		幅 w	-100							
		延長 L	-200							



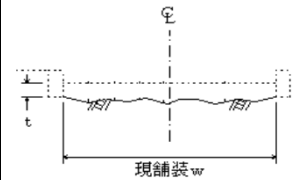
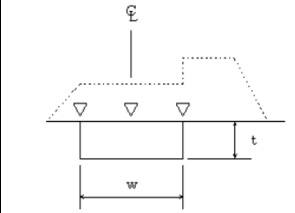
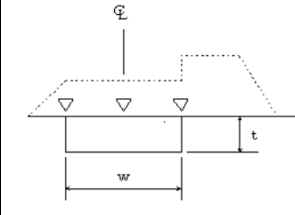
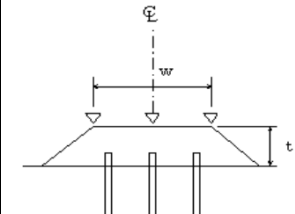
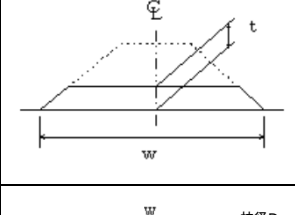
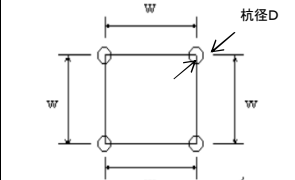
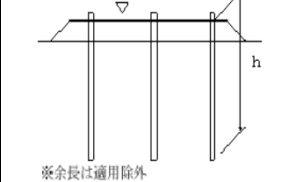

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番号	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
第1章 一般施工 第6節 一般舗装工	1-6-7 アスファルト舗装工	下層路盤工	基準高▽	±50	—	基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1箇所の割に測定。  厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コア採取について ①橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 ②維持工事及び1車線林道においては、平坦性の項目を省略することが出来る。  ③厚さ管理の頻度 150m <sup>2</sup> 未満 コアの抜き取りはしない 150~300m <sup>2</sup> N=1 個 300~2000m <sup>2</sup> N=3 個 2000m <sup>2</sup> ~ N=3個+1000m <sup>2</sup> に1個の割合	アスファルト舗装工 半たわみ性舗装工 排水性舗装工 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 薄層カラー舗装工 ブロック舗装工
			厚さ	-45	-15		
	幅	-50	—				
	1-6-8 半たわみ性舗装工	上層路盤工 (粒度調整路盤工)	厚さ	-30	-8		
			幅	-50	—		
	1-6-9 排水性舗装工	上層路盤工 (セメント (石灰) 安定処理工)	厚さ	-30	-8		
			幅	-50	—		
	1-6-11 ガーラスファクト舗装工	加熱アスファルト安定処理工	厚さ	-20	-5		
			幅	-50	—		
	1-6-12 コンクリート舗装工	基層工	厚さ	-12	-3		
			幅	-25	—		
	1-6-13 薄層カラー舗装工	表層工	厚さ	-9	-2		
			幅	-25	—		
	1-6-14 ブロック舗装工	平坦性	3mプロファイルメータ 標準偏差 (σ) 2.4mm以下 直読式 (足付き) 標準偏差 (σ) 1.75mm以下	—	—		
目地段差			±2	—			
	セメント (石灰・瀝青) 安定処理工	厚さ	-30	-8			
		幅	-50	—			
	アスファルト中間層	厚さ	-12	-3			
		幅	-25	—			
	コンクリート舗装版工	厚さ	-10	-3.5			
		幅	-25	—			
		平坦性	コンクリートの硬化後、3mプロファイルメータにより機械舗設の場合：標準偏差 (σ) 2.4mm以下 人力舗設の場合：標準偏差 (σ) 3mm以下	—	—		
		目地段差	±2	—			
	転圧コンクリート版工	厚さ	-15	-4.5			
		幅	-35	—			
		平坦性	転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメータにより標準偏差 (σ) 2.4mm以下	—	—		
	目地段差	±2	—	—			
		目地段差	±2	—			
1-6-10 透水性舗装工	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	—	基準高は片側延長40m毎に1箇所の割合で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。	※歩道舗装に適用する。	
		厚さ	t < 15cm -30 -10 t ≥ 15cm -45 -15	—			
	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1箇所の割合で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所コアを採取して測定。	※歩道舗装に適用する。	
		幅	-25	—			
1-6-15	路面切削工	厚さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法による事が出来る。		
幅 w	-25	—					
1-6-16	舗装打換え工	路幅 w	-50	—	各層毎1箇所/1施工箇所		
		延長 L	-100	—			
		工厚 t	該当工種	—			
		舗幅 w	-25	—			
		舗設延長 L	-100	—			
		工厚 t	該当工種	—			

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

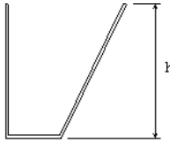
番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
第1章 第6節 一般舗装工	1-6-17	オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
		幅 w	-25					
		延 長 L	-100					
		平坦性	3mプロファイルメーター標準偏差 (σ) 2.4mm以下 直読式 (足付き) 標準偏差 (σ) 1.75mm以下					
	第7節 地盤改良工	1-7-2	路床安定処理工	基準高 ▽	±50	延長40m毎に1箇所の割で測定。基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
			施工厚さ t	-50				
			幅 w	-100				
			延 長 L	-200				
		1-7-3	置換工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
			置換厚さ t	-50				
			幅 w	-100				
			延 長 L	-200				
1-7-5		バイルネット工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。			
		厚 さ t	-50					
		幅 w	-100					
		延 長 L	-200					
1-7-6	サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。				
	幅 w	-100						
	延 長 L	-200						
1-7-7	パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン (袋詰式サンドドレーン工))	位置・間隔 w	±100	100本に1箇所。100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。				
		杭 径 D	設計値以上					
		打込長さ h	設計値以上					
		サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	-					
1-7-8	締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔 w	±100	100本に1箇所。100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。				
		杭 径 D	設計値以上					
		打込長さ h	設計値以上					
		サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	-					
第3章 第3節	1-7-9	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工)	基準高 ▽	-50	100本に1箇所。100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。			
		位置・間隔 w	D/4以内					
		杭 径 D	設計値以上					

第3編土木工事共通編

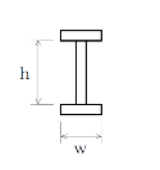
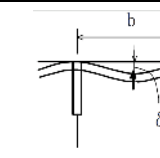
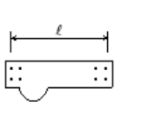
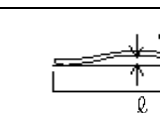
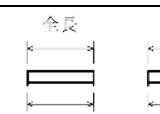
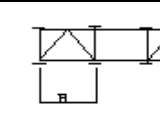
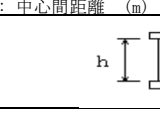

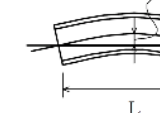
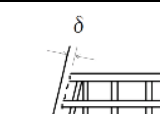
出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
般 施 工	共 通 的 工 種	深 度 $\ell$	設計値以上	全本数			
		1-10-5	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 $\nabla$ 根 入 長	$\pm 100$ 設計値以上	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき1箇所。延長40 m (又は50m) 以下のものは、1施工 箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	
第 1 0 節 仮 設 工		土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ $\ell$ 配 置 誤 差 $d$	設計深さ以上 100	全数 (任意仮設は除く)		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$
		土留・仮締切工 (連節ブロック張り)	法 長 $\ell$ 延 長 $L_1, L_2$	-100 -200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1箇所、延長40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2箇所。 1 施工箇所毎		
		土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 $\nabla$ 天 端 幅 $w$ 法 長 $\ell$	-50 -100 -100	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所に つき2箇所。 (任意仮設は除く)		
		土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 $\nabla$	-50	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所に つき2箇所。 (任意仮設は除く)		
		1-10-9	地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 $\nabla$ 連 壁 の 長 さ $\ell$ 変 位 $d$ 壁 体 長 $L$	$\pm 50$ -50 300 -200	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき1箇所。延長40 m (又は50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき2箇所。変位は施工 延長20m (測点間隔25mの場合) は25m) につき1箇所。延長20m (又は25m) 以下のものは1 施工箇所 につき2箇所。	
1-10-	地中連続壁工 (柱列)	基 準 高 $\nabla$ 連 壁 の 長 さ $\ell$ 変 位 $d$ 壁 体 長 $L$	$\pm 50$ -50 D/4以内 -200	基準高は施工延長40m (測点間隔25m の場合は50m) につき1箇所。延長40 m (又は50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき2箇所。変位は施工 延長20m (測点間隔25mの場合) は25m) につき1箇所。延長20m (又は25 m) 以下のものは1 施工箇所につき2 箇所。		D : 杭径	
1-10-	法面吹付工	法 長 $\ell$ 厚 さ $t$ 延 長 $L$	$\ell < 3\text{m}$ : -50 $\ell \geq 3\text{m}$ : -100 $t < 5\text{cm}$ : -10 $t \geq 5\text{cm}$ : -20 但し、吹付面に凹凸がある場合 の最小吹付厚は、設計厚の50% 以上とし、平均厚は設計厚以上 -200	施工延長40mにつき1箇所、40m以下 のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測 定が困難な場合は直線法長とする。 200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は 2箇所をせん孔により測定。 1 施工箇所毎			

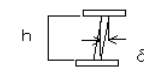
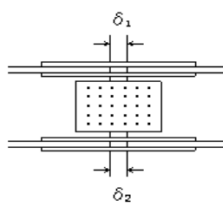

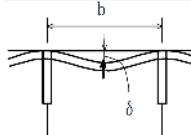
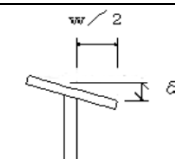
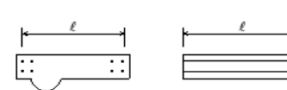
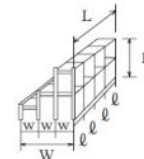
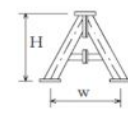
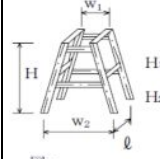
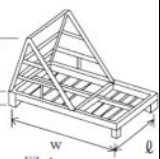
出来形管理基準規格値 (mm)

番号		工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第1章 第12節 一般施工 共通	1-12-1	铸造費 (金属支承工)	上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。 「中心距離」とは、センターボスを基準にした孔位置のずれ。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。			
				中心距離	≤1000mm 1以下 >1000mm 1.5以下				
			アンカーボルト用孔(鑄放し)	孔の直径	≤100mm +3 >100mm -1 >100mm +4 >100mm -2				
				孔の中心距離	JIS B 0403CT13				
			センターボス	ボスの直径	+0 -1				
				ボスの高さ	+1 -0				
			上沓の橋軸及び直角方向の長さ						JIS B 0403CT13
			全移動量φ	φ ≤ 300mm	±2				
				φ > 300mm	± φ / 100				
			組立高さ(工仕上げ)						±3
			組立高さ(H)	コンクリート H ≤ 300mm	±3				
				H > 300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て				
			普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)	JIS B 0403CT14				
				鑄放し肉厚寸法 ※1)	JIS B 0403CT15				
				削り加工寸法 ガス切斷寸法	JIS B 0405 粗級 JIS B 0417 B級				
			铸造費 (大型ゴム支承工)	ゴム支承本体	幅w,長さL,直径D				w, L, D ≤ 500
		500 < w, L, D ≤ 1500mm				0 ~ +1%			
		1500 < w, L, D				0 ~ +15			
		厚さt			t ≤ 20mm	±0.5			
					20 < t ≤ 160	±2.5%			
平面度	160 < t	±4							
	w, L, D ≤ 1000	+1							
	1000 < w, L, D	w, L, D / 1000							
支承高さ(A)幅高さ(B)高さ(C)	A, B ≤ 1500mm	ゴム支承本体厚さ(t)の許容差に±1.5mmを加算							
	1500mm < A, B	ゴム支承本体厚さ(t)の許容差に±2mmを加算							
上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0							
		中心距離	≤1000mm ≤1 >1000mm ≤1.5						
	アンカーボルト孔	孔の直径	+3 -1						
		孔の中心距離	JIS B 0417 B級						
	アンカーボルトの長さ			±2%					
	せん断キ	直径: d	-1 ~ +0						
		高さ: h	-1 ~ +1						
	普通寸法			JIS B 0405 粗級 ガス切斷寸法 JIS B 0417 B級					
仮設材製作工	部材	部材長 φ	±3..... φ ≤ 10 ±4..... φ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。		規格値のに代入する数値はm単位の数値			
刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	±2..... h ≤ 0.5							
		±3..... 0.5 < h ≤ 1.0							
		±4..... 1.0 < h ≤ 2.0							
外周長 φ			±(10+ φ/10)	図面の寸法表示箇所にて測定。		規格値の、φ、hに代入する数値はm単位の数値			

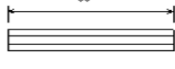
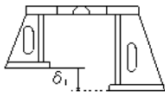

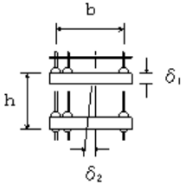
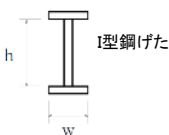
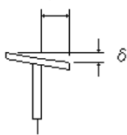
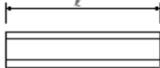
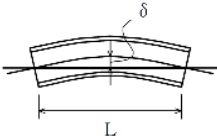
出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要		
				鋼桁等	トラス・アーチ等				
第1章 一般施工 第12節 工場製作工 共通	1-12-3 桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (mm)	±2..... w ≤ 0.5	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。  床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。  なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表にかえることができる。		規格値のwに代入する数値はm単位の数値		
			腹板高 h (mm)	±3..... 0.5 < w ≤ 1.0					
			腹板間隔 b' (mm)	±4..... 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2) 2.0 < w					
			鋼桁及びトラス等の部材の腹板	h/250				h: 腹板高 (mm) b: 腹板又はリブの間隔 (mm) w: フランジ幅 (mm)	
			箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b/150					
			フランジの直角度 δ (mm)	w/200					
		部 材 長 ℓ	鋼 桁	±3..... ℓ ≤ 10 ±4..... ℓ > 10	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。		規格値のℓに代入する数値はm単位の数値		
			トラス、アーチな	±2..... ℓ ≤ 10 ±3..... ℓ > 10					
		圧縮材の曲がり δ	ℓ/1000	-	主要部材全数を測定 ℓ: 部材長 (mm)				
		仮 組 立 精 度	全長、支間長 L (m)	±(10+L/10)	主桁、主構全数を測定。			規格値のLに代入する数値はm単位の数値	
			主桁、主構の中心間距離 B (m)	±4 .....B ±(3+B/2) .....B > 2	各支点及び各支間中央付近を測定。			規格値のBに代入する数値はm単位の数値	
			主構の組立高さ h	±5 .....h ±(2.5+h/2) .....h > 5	-		両端部及び中心部を測定。 	規格値のhに代入する数値はm単位の数値	
			主桁、主構の通り δ	5+L/5..... L ≤ 100 25 .....L >	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L: 側線上 (m)			規格値のLに代入する数値はm単位の数値	
			主桁、主構のそり δ	-5~+5 ..... L ≤ 20 -5~+10..... 20 < L ≤ 40 -5~+15..... 40 < L ≤ 80 -5~+25..... 80 < L ≤ 200	各主桁について10~12m間隔を測定。 L: 主桁の支間長 (m)		各主構の各格点を測定。 L: 主構の支間長 (m)		規格値のLに代入する数値はm単位の数値
主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。							

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要	
				鋼桁等	トラス・アーチ等			
第1章 一般施工	1-12-3 桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	仮組立精度	主桁、主構の鉛直度 $\delta$ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h:主桁の高さ (mm)	トラス・アーチ等 支点及び支間中央付近を測定。 h:主構の高さ (mm)		
		現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	設計値 $\pm 5$	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。			$\delta_1, \delta_2$ のうち大きいもの	
		部材精度	フランジ幅 w 腹板高 h 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots w \le 0.5$ $\pm 3 \dots w \le 0.5$ $0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $\dots \dots 2.0 < w$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。			I型鋼げた
	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	鋼桁等の部材の腹板の平面度 $\delta$ (mm)	$h/250$	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高 (mm) b:腹板又はリブの間隔 (mm) w:フランジ幅 (mm)				
		箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$					
	フランジの直角度 $\delta$	$w/200$						
	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \ell \le 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	主要部材全数を測定。					規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値
	桁製作工 (鋼製ダム製作工 (仮組立時))	柱の水平度	10	全数を測定。				
		堤長 L	$\pm 30$				図a 格子形鋼製砂防ダム	
		堤幅 W	$\pm 30$				図b 鋼製スリットダムA型	
堤幅 w		$\pm 10$				図c 鋼製スリットダムB型		
高さ H		$\pm 10$				図d 鋼製L型スリットダム		
ベースプレートの高さ		$\pm 10$						
本体の傾き		$\pm H/500$						
1-12-4		検査路製作工	部材	部材長 $\ell$	$\pm 3 \dots \ell \le$ $\pm 4 \dots \ell >$	図面の寸法表示箇所を測定。		規格値のに代入する数値はm単位の数値

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
				鋼桁等	トラス・アーチ等		
第1章 一般施工 第12節 工場製作工 共通	1-12-5 鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	0 ~ +30	製品全数を測定。		
		仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設計値 $\pm 4$	両端及び中央部付近を測定。		
			フィンガーの食い違い $\delta_2$ (mm)	$\pm 2$			(実測値) $\delta_2$
	1-12-6 落橋防止装置製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値
	1-12-7 橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値
	1-12-8 アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 $\delta_1$ (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。		b: ボルト間隔 (mm) h: 高さ (mm)
			鉛直度 $\delta_2$ (mm)	$h/500$			
			高さ h (mm)	$\pm 5$			
	1-12-9 プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots \dots 2.0 < w$	各支点および各支間中央付近を測定する。		規格値の w に代入する数値はm単位の数値
			腹板高 h				
フランジの直角度 $\delta$ (mm)			$w/200$	各支点および各支間中央付近を測定する。			
部材長 $\ell$ (m)		$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数を測定する。		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値		
仮組立時	主桁のそり	$-5 \sim +5 \dots \dots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \dots \dots 20 < L \leq 40$	各主桁について10~12m間隔を測定。		規格値の L に代入する数値はm単位の数値		
1-12-10 鋼製排水管製作工	部材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値	
1-12-11 工場塗装工	塗膜厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。				

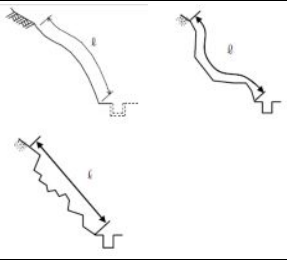
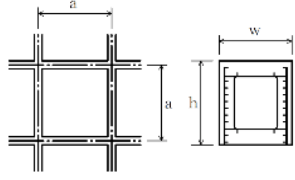
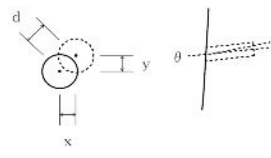
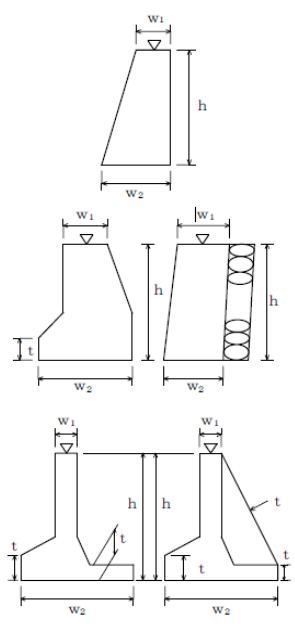
出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
				鋼桁等	トラス・アーチ等		
第1章 第13節 一般施工 橋梁架設工	1-13 架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラペークレーン架設)	全長・支間 L (m)	± (20+L/5)	各桁毎に全数測定する。 L: 主桁・主構の支間長 (m)			
		通 り δ (mm)	± (10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長 (m)			
		そ り δ	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L: 主桁・主構の支間長 (m)			
		※主桁、主構の 中心間距離 B (m)	± 4… B ≤ 2 ± (3+B/2)… B > 2	各支点及び各支間中央付近を測定。			
		※主桁の橋端に おける出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。			
		※主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 h: 主桁・主構の高さ (mm)			
		※現場継手部の すき間 δ 1、δ 2 (mm)	設計値 ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ 1、δ 2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナス 側については設計値以上とする。			
			※は仮組立検査を実施しない工事に適用。				
	架設工 (コンクリー クレーン架設) (架設桁架設) 架設支保工 (固定) (移動) 架設桁架設 (片持架設) (押し架設)	全長・支間	—	各桁毎に全数測定。			
		桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。			
そ り		—	主桁を全数測定。				



第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

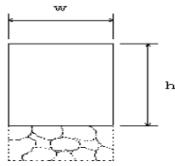
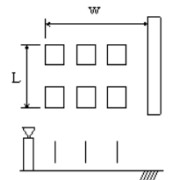
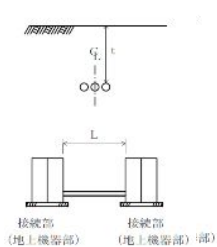
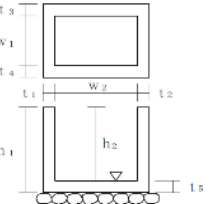
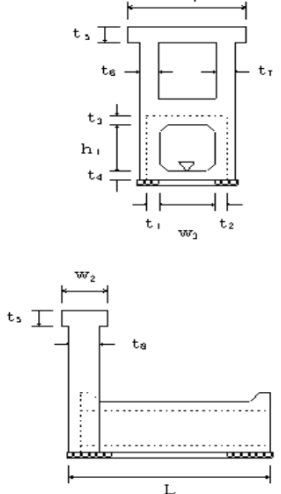
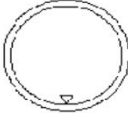
番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
第1章 第14節 一般施工 共通	1-14-2 植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法 長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-200	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎				
			$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-4%					
		盛土法 長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-100					
			$\ell \geq 5\text{m}$	法長の-2%					
		延 長 L	-200						
		法 長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-200			施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 施工面積200㎡につき1箇所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。 1施工箇所毎		
	厚 さ t	$t < 5\text{cm}$	-10						
		$t \geq 5\text{cm}$	-20						
	延 長 L	-200							
	1-14-3 吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法 長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	-50	施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。 200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。 1施工箇所毎				
			$\ell \geq 3\text{m}$	-100					
		厚 さ t	$t < 5\text{cm}$	-10					
$t \geq 5\text{cm}$			-20						
延 長 L		-200							
1-14-4 法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)		法 長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100			施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
	$\ell \geq 10\text{m}$		-200						
	幅 度 w	-30							
	高 さ h	-30							
	吹付枠中心間隔	±100							
	延 長 L	-200							
1-14-4 法枠工 (プレキャスト法枠)	法 長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎					
		$\ell \geq 10\text{m}$	-200						
	延 長 L	-200							
1-14-6 アンカー工	削孔深さ $\ell$	設計値以上	全数	全数 (任意仮設は除く)					
		配置誤差 d	100						
		せん孔方向 $\theta$	±2.5度						
							$d = \sqrt{x^2 + y^2}$		
第15節 擁壁工 共通	1-15-1 場所打擁壁工 コンクリート擁壁工	基 準 高 $\nabla$	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎					
			厚 さ t				-20		
		裏 込 厚 さ	-50						
		幅 $w_1, w_2$	-30						
		高 さ h	$h < 3\text{m}$				-50		
		高 さ h	$h \geq 3\text{m}$				-100		
		延 長 L	-200						

第3編土木工事共通編

出来形管理基準規格値 (単位mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
第1章 一般施工 共通	1-15-2 アレキャスト擁壁工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
		延長 L	-200	1 施工箇所毎。				
	1-15-3 補強土壁工 (補強土 (テールアルメ) 壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
		高さ $h < 3m$	-50					
		$h \geq 3m$	-100					
		鉛直度 $\Delta$	$\pm 0.03 h$ かつ $\pm 300$ 以内					
		控え長さ	設計値以上				同上かつ控え長、種類ごとに測定	
	延長 L	-200	1 施工箇所毎					
	1-15-4 井桁ブロック工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
		法長 $h < 3m$	-50					
$h \geq 3m$		-100						
厚さ $t_1, t_2, t_3$		-50						
延長 $L_1, L_2$		-200	1 施工箇所毎					
第16節 浚渫工 共通	1-16-3 浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高 $\nabla$ 上限 下限		延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。				
		電気船	200ps				+200	-800
			500ps				+200	-1000
			1000ps				+200	-1200
		ディーゼル船	250ps				+200	-800
			420ps				+200	-1000
	600ps		+200	-1000				
		1350ps	+200	-1200				
		幅 w	-200					
		延長 L	-200					
浚渫船運転工 (グラブ船) (バックホウ浚渫船)	基準高 $\nabla$ 上限	+200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。					
	幅 w	-200						
	延長 L	-200						
第18節 床版工 共通	1-18-2 床版工・横組工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	基準高は、1径間当たり2箇所 (支点付近) で、1箇所当り両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定する。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。) 1径間辺り3断面 (両端及び中央) 測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。 1径間当たり3箇所 (両端及び中央) 測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。				
		幅 w	0~+30					
		厚さ t	-10~+20					
		鉄筋のかぶり	設計値以上					
		鉄筋の有効高さ	$\pm 10$					
			$\pm 20$					
			$\pm 10$ (有効高さがマイナスの場合)					
鉄筋間隔								

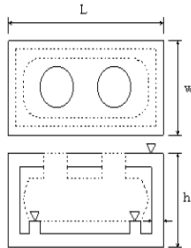
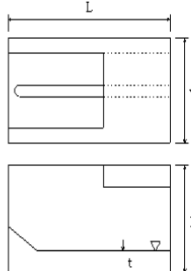
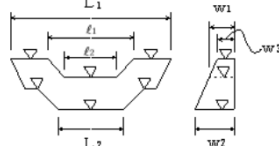
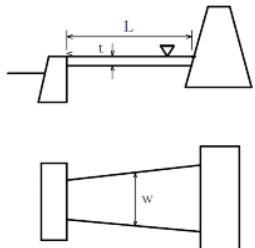
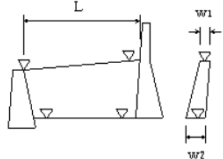
出来形管理基準規格値（単位:mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1章築堤護岸工	第1節 1-1	河川幅	$W \leq 5m$	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所。延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	
			$5m < W \leq 20m$	-80		
			$W > 20m$	$-W/250$		
	第7節 1-7-4	護岸付属物工	幅	-30	各格子間の中央部1箇所を測定。	
			高さ h	-30		
	第8節 1-10-8	杭出し水制工	基準高 $\nabla$	$\pm 50$	1組毎	
			幅 w	$\pm 300$		
			方向	$\pm 7^\circ$		
			延長 L	-200		
	第13節 1-13-3	配管工	埋設深 t	0~+50	接続部（地上機器部）間毎に1箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	
延長 L			-200			
第13節 1-13-4	ハンドホール工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
		※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
		※幅 $w_1, w_2$	-30			
		※高さ $h_1, h_2$	-30			
第3章 3-5-6	第3節 涵渠工 (本体工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	柔構造涵渠の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 涵渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所を測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所を測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		
		厚さ $t_1 \sim t_8$	-20			
		幅 $w_1, w_2$	-30			
		内空幅 $w_3$	-30			
		内空高 $h_1$	$\pm 30$			
		延長 L	-200			
	涵渠工 (ヒューム管) (PC管) (ボルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		延長 L	-200			

出来形管理基準規格値（単位:mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第3章 第3節 樋門・樋管	3-5-7 3-5-8 翼壁工 水叩工	基 準 高	▽ ±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ	t -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h ±30			
		延 長	L -50			
第4章 第6節 水門	4-6-7 4-6-8 4-6-9 4-6-10 4-6-11 床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高	▽ ±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ	t -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h ±30			
		延 長	L -50			
第5章 第6節 可動堰	5-6-13 5-6-14 閘門工 土砂吐工	基 準 高	▽ ±30	図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ	t -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h ±30			
		延 長	L -50			
第7節 固定堰	5-7-8 5-7-9 5-7-10 堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高	▽ ±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ	t -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h ±30			
		堰長L	L < 20 m -50 L ≥ 20 m -100			
第8節 魚道	5-8-3 魚道本体工	基 準 高	▽ ±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		厚 さ	t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub> -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub> -30			
		延 長	L -200			
第7節 管理橋	5-9-2 管理橋橋台工	基 準 高	▽ ±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定。		
		厚 さ	t -20			
		天 端 幅	w <sub>1</sub> -10			
		大 端 幅	w <sub>2</sub> -10			
		敷 幅	w <sub>3</sub> -50			
		高 さ	h <sub>1</sub> -50			
		胸壁の高さ	h <sub>2</sub> -30			
		天 端 長	ℓ <sub>1</sub> -50			
		敷 長	ℓ <sub>2</sub> -50			
		胸壁間距離	ℓ ±30			
		支 点 長 及 び 中 心 線 の 変 化	±50			
第6章 第4節 排水機場	6-4-6 排水機場本体工 吐出水槽工本体工	基 準 高	▽ ±30	図面の表示箇所にて測定		
		厚 さ	t -20			
		幅 度	w -30			
		高 さ	h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub> ±30			
		延 長	L -50			

出来形管理基準規格値 (単位:mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第6章排水機場	第4節排水機場本體工	6-4-7 排水機場 燃料貯油槽工	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 厚  さ $t$ $-20$ 幅  々 $w$ $-30$ 高  々 $h$ $\pm 30$ 延  長 $L$ $-50$	図面の表示箇所で測定		
	第5節沈砂池工	6-5-7 排水機場 コンクリート床版工	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 厚  々 $t$ $-20$ 幅  々 $w$ $-30$ 高  々 $h$ $\pm 30$ 延  長 $L$ $-50$	図面の表示箇所で測定		
第7章床止め・床固め	第4節床止め工	7-4-6 本體工 (床固め本體工)	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 天端幅 $w_1, w_2$ $-30$ 堤  幅 $w$ $-30$ 堤長 $L_1, L_2$ $-100$ 水通しの幅 $l_1, l_2$ $\pm 50$	図面に表示してある箇所で測		
	第5節床固め工	7-4-8 水叩工	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 厚  々 $t$ $-30$ 幅  々 $w$ $-100$ 延  長 $L$ $-100$	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
第5節床固め工	7-5-6 側壁工	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 天端幅 $w$ $-30$ 堤  幅 $w$ $-30$ 長  々 $L$ $-100$	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。			

第5編砂防編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章砂防堰堤	第3節工場	1-3-4 鋼製堰堤仮設材製作工	部材 部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所で測定		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値
		第8節コンクリート堰堤工	1-8-4 コンクリート堰堤本体 コンクリート副堰堤工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	図面の表示箇所で測定。	
	天端部幅 $w_1, w_2$			-30			
	水通しの幅 $w$			$\pm 50$			
	堤長 $L_1, L_2$			-100			
	1-8-6 コンクリート側壁工	1-8-6 コンクリート側壁工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さとは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
			幅 $w_1, w_2$	-30			
			長さ $L$	-100			
	1-8-8 水叩工	1-8-8 水叩工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
			幅 $w$	-100			
			厚さ $t$	-30			
延長 $L$			-100				
第9節鋼製堰堤工	1-9-5 鋼製堰堤本體工 (不透過型)	水通し部	堤高 $\nabla$	$\pm 50$	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
			長さ $\ell_1, \ell_2$	$\pm 100$			
			幅 $w_1, w_2$	$\pm 50$			
		袖部	下流側倒れ $\Delta$	$\pm 0.02H_1$			
			袖高 $\nabla$	$\pm 50$			
			幅 $w_2$	$\pm 50$			
	鋼製堰堤本體工 (透過型)	鋼製堰堤本體工 (透過型)	堤長 $L$	$\pm 50$	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダムA型 B：鋼製スリットダムB型 L：鋼製スリットダムL型
			堤格 $\ell$	$\pm 10$			
			堤格・B・L	$\pm 10$			
			堤幅 $W$	$\pm 30$			
			堤幅 $w$	$\pm 10$			
			堤格・A・B・L	$\pm 10$			
1-9-6 鋼製側壁工	1-9-6 鋼製側壁工	堤高 $\nabla$	$\pm 50$	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。			
		長さ $L$	$\pm 100$				
		幅 $w_1, w_2$	$\pm 50$				
		下流側倒れ $\Delta$	$\pm 0.02H$				
		高さ $h < 3m$	-50				
		高さ $h \geq 3m$	-100				
第2章流路	第5節床固め工	2-5-8 魚道工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。なお、製品使用の場合は、製品寸法については、規格証明書等による。		
		幅 $w$	-30				
高さ $h_1, h_2$	-30						
厚さ $t_1, t_2$	-20						
延長 $L$	-200						

第5編砂防編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第3章 第6節 山腹斜面对策	3-6-4 山腹明暗渠工	基準高 $\nabla$	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		厚さ $t_1, t_2$	-20			
		幅 $w$	-30			
		幅 $w_1, w_2$	-50			
		高さ $h_1, h_2$	-30			
		深さ $h_3$	-30			
		延長 $L$	-200			
第7節 地下水排除工	3-7-4 集排水ボーリング工	削孔深さ $\theta$	設計値以上	全数		
		配置誤差 $d$	100			
		せん孔方向 $\theta$	±2.5度			
	3-7-5 集水井工	基準高 $\nabla$	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		
		偏心量 $d$	150			
長さ $L$		-100				
巻立て幅 $w$		-50				
巻立て厚さ $t$	-30					
第9節 杭抑止	3-9-6 合成杭工	基準高 $\nabla$	±50	全数測定。		
		偏心量 $d$	D/4以内 かつ100以内			

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第1章 第4節 コンクリートダム	1-4 コンクリートダム工 (本体)	天端高	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(越流部堤頂高を含む)は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督員の指示による。 ②監査廊の数高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督員の指示による。		
		天端幅	±20			
		ジョイント間隔	±30			
		リフト高	±50			
		堤幅	-30, +50			
		堤長	-100			
	コンクリートダム工 (水叩)	天端高	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(数高)、ジョイント間は各ジョイント、各測定の交差点部を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督員の指示による。		
		ジョイント間隔	±30			
		幅	±40			
	コンクリートダム工 (副ダム)	天端高	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		
		ジョイント間隔	±30			
		リフト高	±50			
堤幅		-30, +50				
		堤長	±40			
		長さ	-100, +60			
		幅	±40			
		長さ	-100, +60			
		長さ	-100, +60			
		長さ	-100, +60			
		長さ	-100, +60			

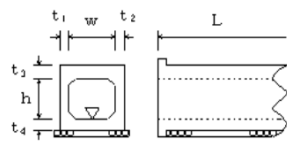
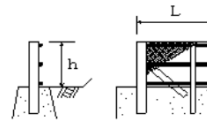
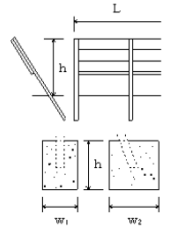
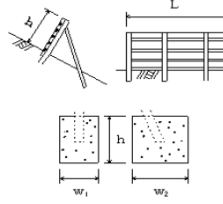
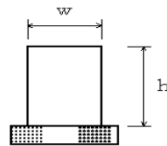
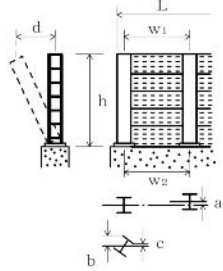


出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第1章 コンクリートダム	第4節 ダムコンクリート工	1-4	コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽ ±30 ジョイント間隔 ±20 リ フ ト 高 ±50 長 さ ±100 厚 さ ±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。		
		2-3-5	コアの盛立	基 準 高 ▽ 設計値以上 外 側 境 界 線 -0, +500	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピングローラ)の場合		
		2-3-6	フィルターの盛立	基 準 高 ▽ -0 外 側 境 界 線 -0, +1000 盛 立 幅 -0, +1000	各測点について5層毎に測定。		
		2-3-7	ロックの盛立	基 準 高 ▽ -100 外 側 境 界 線 -0, +2000	各測点について盛立5m毎に測定。		
		2	フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽ ±20 ジョイント間隔 ±30 厚 さ t ±20 幅 w ±40 リフト高さ ±20 長 さ L ±100	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1回/1施工箇所		
第3章 基礎グラウチング	第3節 ボーリング工	3-3	ボーリング工	深 度 L 設計値以上 配 置 誤 差 100	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーニングラウトに適用する。		

第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第1章道路改良	1-3-2	遮音壁支柱製作工	部材部長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定		規格値の $\ell$ に代入する数値はm単位の数値	
	1-9-6	場所打函渠工	基準高 $\nabla$ $\pm 30$ 厚さ $t_1 \sim t_4$ $-20$ 幅(内法) $w$ $-30$ 高さ $h$ $\pm 30$ 延長 $L$ $L < 20m$ $-50$ $L \geq 20m$ $-100$	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。			
第1節落石雪害防止工	1-11-4	落石防止網工	幅 $w$ $-200$	1 施工箇所毎			
			延長 $L$ $-200$				
			法長 $L$ $-100$				
			吊りロープ長 $L$ $-200$				ロープ10本につき1箇所以上測定。10本以下の場合は2箇所以上測定。
	1-11-5	落石防護柵工	高さ $h$ $\pm 30$	1 施工箇所毎	雪崩予防柵工を適用	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。	
			延長 $L$ $-200$				
			基礎幅 $w_1$ $-30$ 高さ $h$ $-30$				
1-11-6	防雪柵工	高さ $h$ $\pm 30$	1 施工箇所毎	基礎1基毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		延長 $L$ $-200$					
		基礎幅 $w_1$ $-30$ 高さ $h$ $-30$					
1-11-7	雪崩予防柵工	高さ $h$ $\pm 30$	1 施工箇所毎	基礎1基毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
		延長 $L$ $-200$					
		基礎幅 $w_1$ $-30$ 高さ $h$ $-30$					
		アンカー打込み $\ell$ $-10\%$ 埋込み $\ell$ $-5\%$					全数
第1節遮音壁工	1-12-4	遮音壁基礎工	幅 $w$ $-30$	1 施工箇所毎	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			高さ $h$ $-30$				
			延長 $L$ $-200$				
1-12-5	遮音壁本體工	支柱	間隔 $w_1$ $\pm 15$	1 施工箇所毎	施工延長5スパンにつき1箇所		
			ずれ $a$ $10$				
			ねじれ $b-c$ $5$				
			倒れ $d$ $h \times 0.5\%$				
			高さ $h$ $+30, -20$				

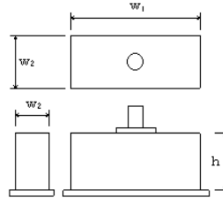
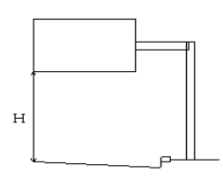
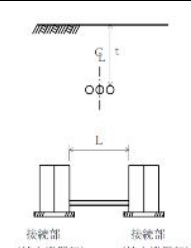
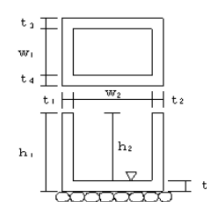
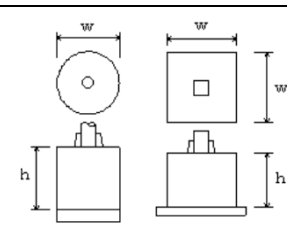
第7編道路編

出来形管理基準規格値（単位mm）

番 号	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
第2章舗装	第4節舗装工	2-4 歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基 準 高 ▽	±50	—	基準高は片側延長40m毎に1箇所 の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所 掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測定。  ※両端部2点で測定する。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コア採取について ①橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
			厚  さ	t < 15cm	-30			-10
				t ≥ 15cm	-45			-15
			幅	-100	—			
		歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚  さ	-9	-3			幅は、片側延長80m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1個コアを採取して測定。
			幅	-25	—			

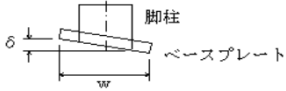
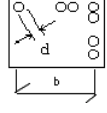
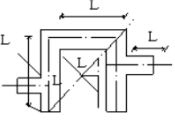


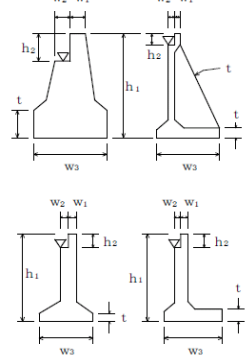
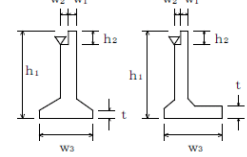
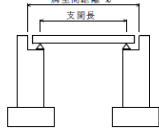
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第2章舗装	物第5節排水構造	排水性舗装用路肩排水	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			延長 L	-200	1箇所/1施工箇所		
	工第6節縁石	中央分離帯工	基準高	$\pm 30$	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
			幅 W	-20			
			高さ H	-40			
			延長 L	-200			
	第7節踏掛版工	踏掛版工 (コンクリート工)	基準高	$\pm 20$	1箇所/1踏掛版		
			各部の厚さ	$\pm 20$	1箇所/1踏掛版		
		(ラバーシュー)	各部の長さ	$\pm 30$	1箇所/1踏掛版		
			各部の長さ	$\pm 20$	全数		
		(アンカーボルト)	厚さ	-			
			中心のずれ	$\pm 20$	全数		
	第9節標識工	大型標識工 (標識基礎工)	幅 $w_1, w_2$	-30	基礎1基毎		
			高さ h	-30			
		大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1箇所/1基		
第12節道路付属施設工	2-12-5	ケーブル配管工	埋設深 t	0~+50	接続部間毎に1箇所		
			延長 L	-200	接続部間毎で全数		
	2-12-5	ケーブル配管工 (ハンドホール) 電線共同溝 (ハンドホール工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	1箇所毎 ※印は、現場打部分のある場合		
			※厚さ $t_1 \sim t$	-20			
			※幅 $w_1, w_2$	-30			
			※高さ $h_1, h$	-30			
2-12-6	照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1箇所/1施工箇所			
		高さ h	-30				

第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

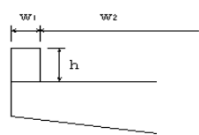
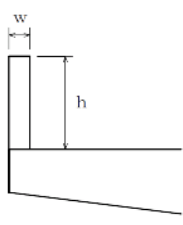
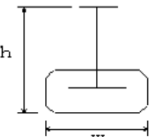
番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第3章 橋梁下部	第3節 工場製作工	鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベースプレートのδ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。 	w:部材幅 (mm)	
				仮組立時	ベースプレートの孔の位置	±2	全数を測定。	
			ベースプレートの孔の径 d		0~5	全数を測定。		
			柱の中心間隔、対角長 L (m)		±5... L ≤ 10m ±10... 10 < L ≤ 20m ±(10+(L-20)/10) ...20m < L	両端部及び片持り部を測定。 		
			はりのキャンパー及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。 	L:測線長		
		柱の鉛直度 δ (mm)	10...H ≤ 10 H...H > 10	各柱及び片持り部を測定。 H:高さ (m) 	側面図 正面図			
		第6節 橋台工	橋台躯体工	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 		
				厚さ t	-20			
				天端幅 w <sub>1</sub> (橋軸方向)	-10			
				天端幅 w <sub>2</sub> (橋軸方向)	-10			
敷幅 w <sub>3</sub> (橋軸方向)	-50							
高さ h <sub>1</sub>	-50							
胸壁の高さ h <sub>2</sub>	-30							
天端長 ℓ <sub>1</sub>	-50							
敷長 ℓ <sub>2</sub>	-50							
胸壁間距離 ℓ	±30							
支間長及び中心線の変位	±50							
アンカーボルトの箱抜き								
支承	計画高	+10~-20						
	平面位置	±20						
	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50 以下						
								

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
第3章 橋梁下部	第7節 RC 橋脚工	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。					
			厚 さ t	-20						
天 端 幅 $w_1$ (橋 軸 方 向)			-20							
敷 幅 $w_2$ (橋 軸 方 向)			-50							
高 さ h			-50							
天 端 長 $l_1$			-50							
敷 長 $l_2$			-50							
橋脚中心間距離 $l$			±30							
支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位			±50							
アンカーボルトの箱抜き										
支 承			計 画 高	+10~-20						
			平 面 位 置	±20						
アンカーボルト孔の鉛直度		1/50 以下								
橋脚躯体工 (ラーメン式)		基準高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。						
		厚 さ t	-20							
		天 端 幅 $w_1$	-20							
		敷 幅 $w_2$	-20							
		高 さ h	-50							
	長 さ $l$	-20								
	橋脚中心間距離 $l$	±30								
	支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位	±50								
	アンカーボルトの箱抜き									
	支 承	計 画 高	+10~-20							
		平 面 位 置	±20							
	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50 以下								
第8節 鋼製橋脚工	3-8-9 橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。						
		幅 (橋軸方向)	-50							
		高 さ h	-50							
		長 さ h	-50							
		橋脚フーチング工 (門型)	基準高 $\nabla$				±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
			幅 $w_1, w_2$				-50			
	高 さ h		-50							
	3-8-10 橋脚架設工 (I型・T型)	基準高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。						
		橋脚中心間距離 $l$	±30							
		支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位	±50							
	橋脚架設工 (門型)	基準高 $\nabla$	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。						
		橋脚中心間距離 $l$	±30							
支 間 長 及 び 中 心 線 の 変 位		±50								
3-8-11 現場継手工	現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	5 ※±5	主桁、主鋼の全継手数の1/2を測定 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合							

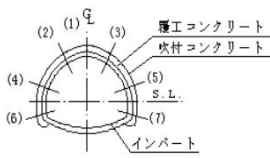
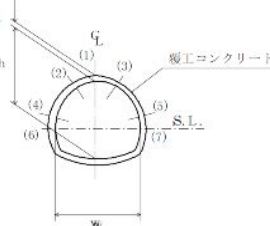
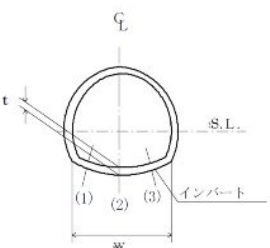
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第4章 第3節 鋼橋上部	4-3-9 橋梁用高欄製作工	部材 部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$	図面の寸法表示箇所にて測定。 B: 支承中心間隔 (m)			
			$\leq 10$				
第5章 第5節 鋼橋架設工	4-5-10 支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	$\pm 5$	支承全数を測定。 B: 支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合 は、水平面の高低差を1mm以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注2) 可動支承の遊間(La、Lb)を計測 し、支承据付時のオフセット量を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
		可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 $\pm 10$ 以上				
		支承中心間隔 (橋軸直角方)	$\pm 5$ かつ $4 + 0.5 \times (B - 2)$				
		平下 度 の 水 橋軸方向	1/100				
			橋軸直角方向				1/100
		可動支承の橋軸方向 のずれ 同一支承線上の相対 誤差	5				
	可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上					
	4-5-10 支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	$\pm 5$	支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認す る。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注2) 可動支承の遊間(La、Lb)を計測 し、支承据付時のオフセット量を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
		可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 $\pm 10$ 以上				
		支承中心間隔 (橋軸直角方)	$\pm 5$ かつ $4 + 0.5 \times (B - 2)$				
		平下 度 の 水 橋軸方向	1/300				
			橋軸直角方向				1/300
可動支承の橋軸方向 のずれ 同一支承線上の相対 誤差		5					
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移動 量計算値の1/2以上						
第4章 第8節 鋼橋上部	4-8-1 地覆工	地覆の幅 $w_1$	$-10 \sim +20$	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測 定。			
		地覆の高さ $h$	$-10 \sim +20$				
		有効幅員 $w_2$	$0 \sim +30$				
	4-8-3 落橋防止装置工	アンカーボルト 孔の削孔長	設計値以上	全数測定する。			
		アンカーボルト 定着長	$-20$ 以内かつ $-1D$ 以内	全数測定する。 D: アンカーボルト径 (mm)			
	4-8-6 4-8-7 橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 $w$	$-5 \sim +10$	1 径間当たり両端と中央部の3箇所測 定。			
		高さ $h$	$-20 \sim +30$				
	4-8-8 検査路工	幅	$\pm 3$	1 ブロックを抽出して測定			
		高さ	$\pm 4$				
	第5章 第6節 コンクリート橋上部	5-6-2 プレベーム桁製作工 (現場)	幅 $w$	$\pm 5$	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレ ッシング後に測定。桁断面寸法測定箇所 は、両端部、中央部の3箇所とする。 $\ell$ : スパン長		
高さ $h$			$+10$ $-5$				
桁 ス パ ン 長 $\ell$			$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ $-30\text{mm}$ 以内				
横方向最大タ ワミ			$0.8\ell$				

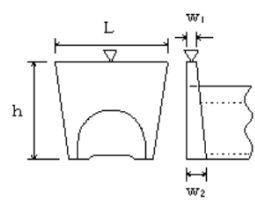
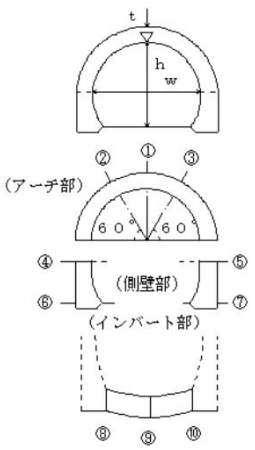
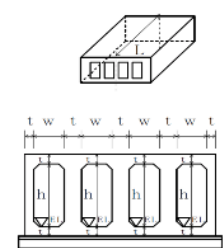
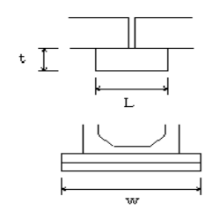
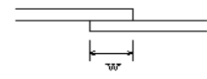

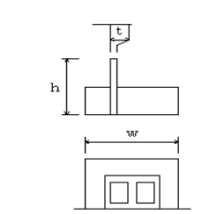
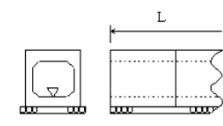
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
第6章 トンネル (NATM)	第4節 支保工	6-4-3 NATM 吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。			
		6-4-4 NATM ロックボルト工	位置間隔 角度 削孔深さ 孔径 突出量	— — — — プレート下面から10cm以内	施工延長40m毎に断面全本数検測。			
第5節 覆工	6-5-3 NATM 覆工コンクリート工	基準高(拱頂)	±50	(1)基準高、幅、高さは、施工40mにつき1箇所。 (2)厚さ (3)コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (4)コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (5)検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)~(3)は100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合は、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の掘付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。				
	6-5-4 NATM 側壁コンクリート工	幅 w (外) 高さ h (内) 厚さ t 延長 L	—50 —50 設計値以上 —					
6-5-5 NATM 床版コンクリート工	幅 w 厚さ t	—50 —30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
第6節 インバート工	6-6-4 NATM インバート本体工	幅 w (全幅) 厚さ t 延長 L	—50 設計値以上 —				(1)幅は、施工40mにつき1箇所。 (2)厚さ (3)コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (4)コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。	



出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第6章トンネル(NATM)	第8節抗門工	6-8-4 NATM 抗門本体工	基準高 $\nabla$ 幅 $w_1, w_2$ 高さ $h < 3m$ 高さ $h \geq 3m$ 延長 $L$	$\pm 50$ -30 -50 -100 -200	図面の主要寸法表示箇所にて測定。		
	6-8-5 NATM 明り巻工	基準高(拱頂) 幅 $w$ (全幅) 高さ $h$ (内法) 厚さ $t$ 延長 $L$	$\pm 50$ -50 -50 -20 —	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。			
第11章共同溝	第6節現場打構築工	11-6-2 共同溝 (現場打躯体工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定		
		12-5-4 電線共同溝 (現場打ボックス工) (特殊部)	厚さ $t$ 内空幅 $w$ 内空高さ $h$ ブロック長 $L$	-20 -30 $\pm 30$ -50			
	11-6-4 共同溝 (カラー継手工)	厚さ $t$ 幅 $w$ 長さ $L$	-20 -20 -20	図面の寸法表示箇所にて測定			
	11-6-5 共同溝 (防水工)	共同溝 (防水工)	幅 $w$	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定		
		共同溝 (防水保護工)	厚さ $t$	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定		
共同溝 (防水壁)		高さ $h$ 幅 $w$ 厚さ $t$	-20 $\pm 50$ -20	図面の寸法表示箇所にて測定			
ト第6節構築工	11-7-2 共同溝 プレキャスト躯体工	基準高 $\nabla$ 延長 $L$	$\pm 30$ -200	施工延長40m (測点間隔2.5mの場合は50m) につき1箇所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の摘要は掘付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1施工箇所毎			

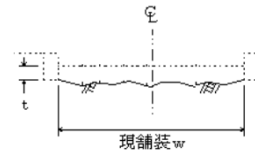
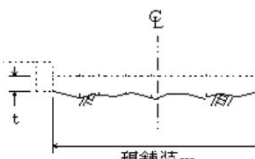
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第12章 第5節 電線共同溝工	12-5-2 管路工 (管路部)	埋 設 深	0~+50	接続部(地上機器部)間毎に1箇所		
		延 長 L	-200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】		
	12-5-3 プレキャストボックス (特殊部)	基 準 高 ▽	±30	接続部(地上機器部)間毎に1箇所		
第6節 付帯設備工	12-6-2 ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30	1箇所毎 ※現場打部分のある場合		
		※厚さ $t_1 \sim t$	-20			
		※幅 $w_1, w_2$	-30			
		※高さ $h_1, h$	-30			

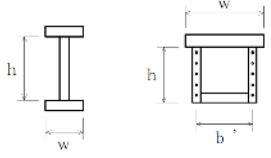
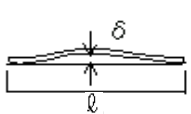
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )			
第14章道路維持	第3節舗装工	14-3-5 切削オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高さとの切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所/割とし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。
			幅 w	-25			
			延 長 L	-100			
		平 坦 性	3mプロファイルメーター標準偏差 (σ) 2.4mm以下 直接式 (足付き) 標準偏差 (σ) 1.75mm以下				
	14-3-7	路上再生工	路厚 さ t	-30	幅は延長80m毎に1箇所/割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		
路幅 w	-50						
路工延 長 L	-100						

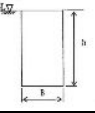
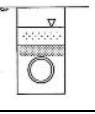
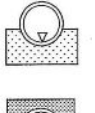
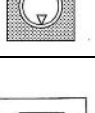
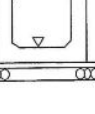

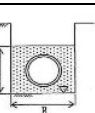
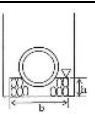
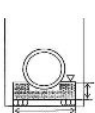
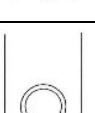
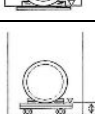
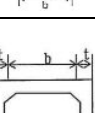
第7編道路編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
				鋼げた等	トラス・アーチ等		
第16章 道路修繕	第3節 工場製作工	16-3-4 桁補強材製作工	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $b'$ (m) $\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots$ $2.0 < w$	主桁・主構	各支点および各支間中央付近を測定。	 <p>1型鋼げた                  トラス弦材</p>	
				床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
				フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$	主桁	
圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$l/1000$	-	主要部材全数を測定 $l$ : 部材長 (mm)				


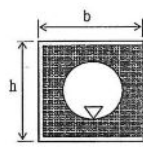

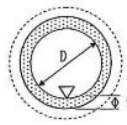
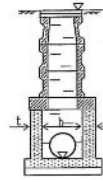
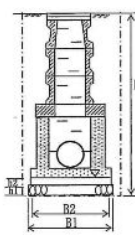

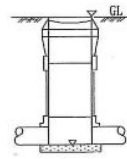
第8編下水道編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第8編 第1章 下水道編 開削工	8-1-1 管路掘削	深さ h	±30	マンホール間ごとに1箇所測		
		幅 B	-50			
	8-1-1 管路埋戻	基準高▽	±30	マンホール間ごとに1箇所測		
	8-1-2 管布設 (自然流下管)	基準高▽	±30	標準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。		
		中心線の変位(水平)	±50			
		勾配	設計勾配±20%			
		延長 ℓ	- ℓ /500 か +200			
		総延長 L	-200			
	8-1-2 短形渠 (プレキャスト)	基準高▽	±30	標準高、中心線の変位(水平)は、施工延長20mにつき1箇所の割合で測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。		
		中心線の変位(水平)	±50			
		勾配	設計勾配±20%			
		延長 ℓ	- ℓ /500 か +200			
		総延長 L	-200			
	8-1-2 圧送管	基準高▽	±30	施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。		
		中心線の変位(水平)	±50			
		総延長	-200			
	8-1-3 砂基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。		
		幅 B	-50			
		厚さ h	-30			
8-1-3 碎石基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。			
	幅 b	-50				
	厚さ h	-30				
8-1-3 コンクリート基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。			
	幅 b	-30				
	厚さ h	-30				
8-1-3 まくら土台基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。			
8-1-3 はしご胴木基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測定する。			
	幅 b	-30				
	厚さ h	-30				
8-1-4 現場打水路	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)、幅、高さ、厚さは、1打設長ごとに両端部等を測定する。 1打設長が20m以上の場合は、20mにつき1箇所の割合で測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。			
	中心線の変位(水平)	±50				
	幅 b	-30				
	高さ h	±30				
	厚さ h	-20				
	勾配	設計勾配±20%				
	延長 ℓ	- ℓ /500 か +200				
総延長 L	-200					
8-1-5 鋼矢板土留	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測定する。			
	根入長 L	設計値以上				
	変位	100				

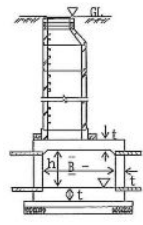
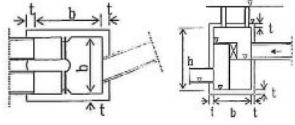

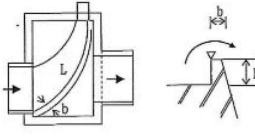

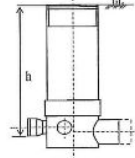

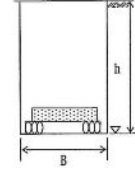
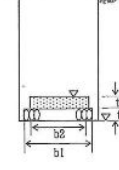
第8編下水道編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第8編 下水道編	第2・3章 小口径推進工・推進工	8-2-1 推進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、推進管1本ごとに1箇所測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。		
			中心線の変位(水平)	±50			
			勾配	設計勾配±20%			
			延長 ℓ	- ℓ/500 かつ +200			
			総延長 L	-200			
	8-2-2 空伏工	基準高▽	±50	1 施工箇所ごとに測定する。			
		幅 b	-30				
		高さ h	-30				
		中心のずれ	±50				
		延長	-50				
勾配	設計勾配±20%						
第4章 シールド工	8-4-1 掘進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、セグメント5リングにつき1箇所測定する。 延長ℓはマンホール間を測定する。			
		中心線の変位(水平)	±100				
		延長 ℓ	- ℓ/500 かつ +200				
	8-4-2 二次履工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長40mにつき1箇所測定する。 二次履工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。 仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所測定する。			
		中心線の変位(水平)	±50				
		二次履工 t	-20				
		仕上がり内径 D	±20				
		勾配	設計勾配±20%				
		延長 ℓ	- ℓ/500 かつ +200				
	総延長 L	-200					
第5章 マンホール工	8-5-1 標準マンホール	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。			
		幅 b (内法)	-30				
		壁厚 t	-20				
		人孔天端高	±30				
	標準マンホール基礎工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。			
		床掘深 H	±30				
		基礎工幅 B1	-50				
		基礎工高 h1	-30				
		コンクリート工幅 B2	-30				
		コンクリート工高 h2	-10				
	8-5-2 組立マンホール	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。			
		人孔天端高	±30				
	8-5-3 小型マンホール	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。			
		人孔天端高	±30				

第8編下水道編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
第8編 第6章 下水道編 特殊マンホール工	8-6-1 現場打ち特殊人	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
		幅 b	-30			
		高さ h	±30			
		壁厚 t	-20			
		人孔天端高	±30			
	8-6-2 伏せ越し室・雨水吐室工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
		幅 b (内法)	±30			
		高さ h	±30			
		厚さ t	-20			
	8-6-3 伏せ越し管工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
		中心線の変位	±30			
	8-6-4 越流堰 (雨水吐室)	基準高▽	±10	基準高は、中央部および両端部を測定する。 幅、高さ、延長は、1 施工箇所ごとに測定する。		
		幅 b (厚さ)	±20			
		高さ h (深さ)	±30			
		延長 L (長さ)	-20			
中継ポンプ施設	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。			
	幅、長さ B	-30				
	深さ h	-30				
	壁厚 t	-20				
第7章 取付管及びます工	8-7-1 公共ます	ます深 h	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
	8-7-2 取付管	延長 (L)	-200	1 施工箇所ごとに測定する。		
第11章 立坑工	8-11-1 立坑工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
		寸法 B	±100			
		深さ h	±30			
	立坑土工	基準高▽	±30	1 施工箇所ごとに測定する。		
		砕石基礎幅 b1	-50			
		砕石基礎厚 t1	-30			
		底版コンクリート基準高	±30			
底版コンクリート幅 b2	-30					
底版コンクリート厚 t2	-10					

第9編公園緑地編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第9編公園緑地編	第2章植栽	9-2-1 植栽工 客土	pH(H <sub>2</sub> O)	4.5~8.0	各採取地毎		
			電気伝導度 (ECメーター)	0.1~1.0mS/cm			
	9-2-2 植栽工 高木 (H=3.0m以上)	本数	設計値以上	樹種別、規格別に各設計数量の10%を計測する。 ※規格値については生産地によりばらつきがあり、これにより支障が生じる場合には監督員との協議により決定する。			
		樹高 (H)	設計値 ≤ H				
		幹周 (C)	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値				
	9-2-3 植栽工 中低木 (H=3.0m未満)	枝張 (W)	設計値 ≤ W	樹種別、規格別に各設計数量の10%を計測する。 ※規格値については生産地によりばらつきがあり、これにより支障が生じる場合には監督員との協議により決定する。			
		本数	設計値以上				
		樹高 (H)	設計値 ≤ H < 上位階級の寸法値				
	9-2-4 植栽工 特殊樹木	枝張 (W)	設計値 ≤ W	樹種別、規格別に各設計数量の10%を計測する。 ※規格値については生産地によりばらつきがあり、これにより支障が生じる場合には監督員との協議により決定する。			
		本数	設計値以上				
		樹高 (H)	設計値 ≤ H				
	9-2-5 植栽工 地被類	幹周 (C)	設計値 ≤ C < 上位階級の寸法値	設計数量の1%を計測する。 ※規格値については生産地によりばらつきがあり、これにより支障が生じる場合には監督員との協議により決定する。			
		枝張 (W)	設計値 ≤ W				
		本数又は面積	設計値以上				
		茎長 (L)	設計値 ≤ L				
	芽立ち	設計値 ≤ 芽立数					



出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第10章 編治山編	10-3-1 山腹線の緑化工 (筋工、柵工等) (木柵工等)	階 段 延 長	-200	施工箇所毎に測定。		
		階 段 幅	-100	階段幅又は高さは各段100mに2箇所。		
		高 さ	±100	段長100m以下は1段毎に2箇所測定。		
		杭 根 入 れ 長	-100			
		杭 長	設計値以上			
	10-3-2 山腹面の緑化工 (吹付工、伏工、植栽)	植 栽 本 数	設計値以上	植栽木の本数は各段階毎に全数測定。		
		面 積	設計値以上	全面積測定。		
	10-3-3 山腹水路工 (張芝、土壌水路工等)	植 栽 本 数	設計値以上	植栽木全数測定。		
		弦 長 (幅) $l$	±100	施工延長20m毎に1箇所。延長20m以下は1箇所毎に2箇所測定。		
		矢 高 (深さ) $h$	-50			
	延 長 $L$	-200	全延長測定。			
10-4 ロープネット工	アンカー削孔深	設計深さ以上	施工本数の25%。ただし、当初設計と条件の異なるアンカーについては全数測定。			岩部用アンカー・土砂部アンカーともに適用。
	アンカー削孔方向	地面に垂直に削孔することを標準とし、下向き40度、上向き15度以内				
	ロ ー プ 間 隔	±200 +500	(基準軸) 縦、横軸すべて測定 (その他) 200m <sup>2</sup> または一施工区に1格子 (2m×2m) について測定			
	ロ ー プ 延 長	±200 ±400 ±500	(基準軸) 全数量測定すること。 (その他) 全数量測定すること。			
		設計値以上				
第5章 自然林造成・改良	10-5-1 植栽工 (緑化工) 大苗 中苗	本 数	設計値以上	樹種毎に本数は全数。		
		樹 高・枝 張	設計値以上	樹高、枝張、目通り幹周については、20本につき1本の割合で測定。		
	目 通 り 幹 周	-10				
	10-5-2 植栽工 (緑化工) 小苗	樹 高・本 数	設計値以上	樹種毎に50本(株)に1本(株)の割合で測定。		
10-5-3 支柱	本 数	設計値以上	本数については、全数。			
	末 口 径	-15	長さ・末口径は100組未満は10組に1組最低5組、100組以上は20組に1組測定。			
10-5-4 張芝工 (広場造成)	長 さ	設計値以上	全面積測定			
第5章 森林整備	10-5-5 植栽工(森林整備)	本 数	設計値以上	各工区毎に10m×10mの標準地を設定し測定。 標準地は1工区当たりの面積が1ha未満は2箇所以上、1ha以上は1haにつき1箇所以上測定。		
		高 さ	設計値以上	各工区毎に10m×10mの標準地を設定し本数を測定。 標準地は1工区当たりの面積が1ha未満は2箇所以上、1ha以上は1haにつき1箇所以上測定。		
	本 数					
	測 線 又 は 対 角 線 方 位 角	±200 ±1°	全測線測定。 全箇所測定。			
	10-5-7 本数調整伐	伏 採 1 標 準 地 本 数	±2本 +2本	各工区毎に10m×10mの標準地を設定し本数及び胸高断面積を測定。 標準地は1工区当たりの面積が1ha未満は2箇所以上、1ha以上は1haにつき1箇所以上測定。 ※標準地平均は、同一工区での平均。		
		材 積 又 は 胸 高 断 面 積 1 標 準 地	±2本相当材積 又は胸高断面積 +2本相当材積 又は胸高断面積			
		材 積 又 は 胸 高 断 面 積 標 準 地 平 均				
測 線 又 は 対 角 線 方 位 角	±200 ±1°	全測線測定。 全箇所測定。				
10-5-8 雪起し	本 数	設計値以上	各工区毎に10m×10mの標準地を設定し測定。 標準地は1工区当たりの面積が1ha未満は2箇所以上、1ha以上は1haにつき1箇所以上測定。			
	測 線 又 は 対 角 線 方 位 角	±200 ±1°	全測線測定。 全箇所測定。			
10-5-9 下刈・つる切り	測 線 又 は 対 角 線 方 位 角	±200 ±1°	全測線測定。 全箇所測定。			
10-5-10 除伐	測 線 又 は 対 角 線 方 位 角	±200 ±1°	全測線測定。 全箇所測定。			
10-5-11 作業歩道 (W≤50cm)	測 点 間 距 離	-200	各測点すべて測定。			
10-5-12 作業歩道 (W>50cm)	幅	-100	幅は50mにつき1箇所測定。			
	測 点 間 距 離	-200	各測点すべて測定。			
10-5-13 作業車道	幅	-150	幅は50mにつき1箇所測定。			
		林道土工に準ず				

第11編林道編

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号		工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
第 1 1 編  林 道 編	第 1 1 編	11-1 林道土工	基 準 高	±100	各測点すべて測定。 基準高は原則として中心線で測定。 (基準高について、同時舗装の場合は 道路土工に準じる。) 線形については、全IPの位置を測 定。				
			幅	b				-100	
			法 長	盛 土				<5m	-100
				切 土				<5m	-2%
			路 床 厚	盛 土				≥5m	-2%
				切 土				≥5m	-4%
			測 点 間 距 離						±100
			I P 間 距 離	<40					±200
				≥40					±0.5%
			交 角						±1°

出来形管理基準規格値 (mm)

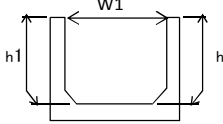
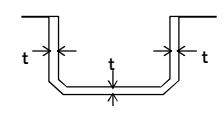
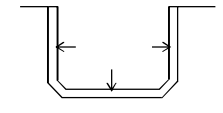
番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第12編 土地改良編	12-1 水路トンネル (支保工)  (コンクリート覆工)	間 隔 L	±75	(支保工)		土地改良に適用
		幅 b(Bタイプ)	-0	間隔、幅は全基数について測定する。支保工幅の測定時期は原則として建込み直後及び覆工前の2回とする。		
		(C、Dタイプ)	-40			
		基 準 高	±150	(コンクリート覆工)		
		厚 さ t	-0	1. 基準、厚さ、幅、高さについては1スパンにつき1箇所割合で測定する。		
		幅 高 さ h	-40	(n) コンクリート打設後の覆工コンクリートについて1スパンの端面(施工継ぎ目)において図に示す標示箇所の各点で測定する。		
		中心線のずれ	直線 ±100	(h) 削孔による巻厚の測定は図の①において50mにつき1箇所②③④において100mにつき1箇所割合で行う。ただし、トンネル延長が100m未満のものについては2箇所以上の削孔を行い巻厚測定を行う。		
			曲線 ±150	3. 中心線のズレ		
		施工延長 L < 150m	-150	直線部は50mにつき1箇所、曲線部は1スパンにつき1箇所割合で測定する。		
		延長 L ≥ 150m	-0.1%			
		12-2	防護柵	施工延長 L		
12-3	管水路 (RC管、PC管)	基 準 高	(注1) ±50	基準高、中心線のずれ(直線部)については施工延長おおむね40m(測点間隔)によつては50m)につき1箇所の割合で測定する。 中心線のずれ(曲線部)についてはおおむね10mに1箇所の割合で測定する。上記未滿は2箇所測定する。 ジョイント間隔、ゴム輪位置については1本毎測定する。 (注1) 被圧地下水のある場所に適用		基準高の測定は管底を原則とする。ただし、φ1350mm以下又は管底での測定が困難な場合は管頂まで埋戻時の管頂でも良い。  中心線のずれの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。
		中心線のずれ	±100			
		ジョイント間隔	農林省監修土木工事施工管理基準による			
		ゴム輪位置	農林省監修土木工事施工管理基準による			
		施工延長 L < 200m	-200			
		延長 L ≥ 200m	-0.1%			
たわみ率	±5%					
12-4	管水路 (鑄鉄管、強化プラスチック複合管)	基 準 高	(注1) ±50	基準高、中心線のずれ(直線部)については施工延長おおむね40m(測点間隔)によつては50m)につき1箇所の割合で測定する。 中心線のずれ(曲線部)についてはおおむね10mに1箇所の割合で測定する。上記未滿は2箇所測定する。 ジョイント間隔、ゴム輪位置については1本毎測定する。 (注1) 被圧地下水のある場所に適用		基準高の測定は管底を原則とする。ただし、φ1350mm以下又は管底での測定が困難な場合は管頂まで埋戻時の管頂でも良い。  中心線のずれの測定は管頂まで埋戻時の管頂を原則とする。
		中心線のずれ	±100			
		施工延長 L < 200m	-200			
		延長 L ≥ 200m	-0.1%			
		ジョイント間隔	農林省監修土木工事施工管理基準による			
		たわみ率	±5%			
12-5	管水路 (硬質塩化ビニール管)	基 準 高	±50	基準高、中心線のずれ(直線部)については施工延長おおむね40m(測点間隔)によつては50m)につき1箇所の割合で測定する。 中心線のずれ(曲線部)についてはおおむね10mに1箇所の割合で測定する。上記未滿は2箇所測定する。		土地改良に適用  埋設深は基準高を規定していない場合に適用する。
		施工延長 L < 200m	-200			
		延長 L ≥ 200m	-0.1%			
		埋 設 深	-50			
		中心線のずれ	±120			
12-6	管水路基礎	高 さ (V <sub>2</sub> - V <sub>1</sub> )	±30	設計図書に示された高さ、幅については施工延長40m(測点間隔)によつては50m)につき1箇所の割合で測定する。上記未滿は2箇所測定する。		土地改良に適用 基礎材が異なる場合は種類毎に測定する。
		幅	-100			

第12編土地改良編

出来形管理基準規格値 (mm)

番号	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
第12編 土地改良編	12-7 ほ場整備農地開発 U字溝BF水路	基準高	±40	基準高、法勾配、幅については施工延長50mにつき1箇所の割合で測定する。			
		幅	$b < 1.0$ m				-50
			$b \geq 1.0$ m				-100
		接合 10本当たり	±50				
		施工延長	$L < 200$ m				-200
	$L \geq 200$ m		-0.1%				
	法勾配 n	±0.1					
	12-8 ほ場整備農地開発 組立柵きよ工	基準高	±50	基準高、法勾配、幅については施工延長50mにつき1箇所の割合で測定する。			
		幅 b	-40				
		接合 10本当たり	±50				
		施工延長	$L < 150$ m				-150
			$L \geq 150$ m				-0.1%
	法勾配 n	±0.1					
	12-9 ほ場整備農地開発土砂 水路	基準高	±100	基準高、法勾配、幅については施工延長50mにつき1箇所の割合で測定する。			
		水路幅 b1	-75				
		天端幅	$b2 < 1.0$				-50
			$b2 \geq 1.0$				-100
		高さ h	-75				
施工延長		$L < 200$ m	-400				
		$L \geq 200$ m	-0.2%				
法勾配 n	±0.1						
12-10 ほ場整備農地開発土砂 道	基準高	±150	幹線道路 施工延長50mにつき1箇所の割合で測定  支線道路 施工延長200mにつき1箇所の割合で測定				
	幅	-150					
	路床厚	-45					
	施工延長	$L \geq 200$ m				-0.2%	
$L < 200$ m		-400					
12-11 敷砂利	幅	-100	幅、厚さは延長50mにつき1箇所測定又200mに1箇所の割合で掘起して厚さを測定				
	厚さ	-45					
	施工延長	$L < 50$ m				-100	
$L \geq 50$ m		-0.2%					
12-12 ほ場整備整地工 (水田)	基準高 (指定した時)	±150	全耕区、10m方眼点にて測定。 1 表土深は、標高測定又はつぼ堀による 2 基準高及び均平度は標高測定とする。また、基準高は基盤面の高さ、均平度は表土戻し後に測定する。				
	表土深	-20%					
	均平度	±50					
12-13 ほ場整備整地工 (畑地)	基準高 (指定した時)	±200	全筆 測定数は水田に準ずる				
	表土深	-20%					
	均平度	±100					
12-14 ほ場整備畦畔工	畦畔高 h	-50	施工延長200mにつき1箇所の割合で測定  施工延長を示さない場合は1耕区1箇所の割合で測定				
	畦畔幅 b	-50					
	法勾配 n	±0.1					
12-15 ほ場整備農地開発 暗渠排水工	布設深	-75	吸水きよの布設深間隔については上・下流端の2箇所測定ただし1本の布設長が100m以上のときは中間点を加えた3箇所を測定  集水きよは施工延長40mごとに1箇所の割合で測定延長40m以下は1施工箇所ごとに2箇所測定				
	間隔	±750					
	施工延長	$L < 500$ m				-1,000	
		$L \geq 500$ m				-0.2%	
12-16 農地造成 (山成畑)	幅及び長さ	±0.5%	長さ幅は1筆当り1箇所測定 均平度は1筆当り9箇所測定 耕起深は1筆当り5箇所つぼ堀して測定	指定した時	1haあたりおおむね1箇所測定		
	耕起幅	±0.5%					
	基準高	±300					
	耕起深	(果樹)				-75	
		(野菜)				-15	
12-17 農地造成 (テラス)	幅員	-150	テラス長100m当り1箇所の割合で測定 耕起深は1ha当り10箇所測定するほかつぼ堀1ha当り2箇所行い測定。側溝については土水路に準ずる				
	耕起幅	-150					
	耕起深	(果樹)				-75	
		(野菜)				-15	
	土水路	幅				-75	
		高さ				-75	
12-18 土壌改良	PH測定	±0.5	50aにつき1箇所測定 (深さ15cm) 改良剤散布後2週間以上経過してから測定する。				

出来形管理基準規格値 (mm)

番 号	工 種	測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
第12編 土地改良編	12-19 表面被覆工	高さ(壁高)	-30	施工延長40mにつき、1箇所。40m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。		展開図により確認により面積が設計以上であることを確認	
		幅	-30				
		延長	-200	1施工箇所毎。			
		厚さ	設計値以上	100m <sup>2</sup> につき1回。ただし、延長40mを越えて、施工面積が100m <sup>2</sup> に満たない場合は、40mにつき1回とする。1回当たり3点(側壁2点、底版1点)。		材料使用量を空袋にて確認	
		高圧洗浄(品質)	目視による確認	全線			
		外観(品質)	目視による確認	全線			
		材料付着力(品質)	平均値が1.3N/mm <sup>2</sup> 以上かつ最小値が1.0N/mm <sup>2</sup> 以上であること。	100m <sup>2</sup> につき1箇所。ただし、延長40mを越えて、施工面積が100m <sup>2</sup> に満たない場合は、40mにつき1箇所とする。1箇所当たりの試験数は3個			
	圧縮強度試験(品質)	1回の試験結果が設計値の85%以上、かつ3回平均が設計値以上であること。 設計値：既設構造物の設計強度	1回/日又は、構造物の種類と規模に応じて、品質管理基準 別表1に従い現場でテストピースを採取する。(15~150m <sup>3</sup> :1回)小規模で総使用量が15m <sup>3</sup> 未満は、1工種1回以上。4週強度				
	浮き上がりの有無(品質)	ハンマーによる打音にて確認	全線				
	12-20 目地補修工	幅、厚さ	延長	-200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50mにつき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2箇所)		
			厚さ	現場塗装工の基準を準用 a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。			
			外観(品質)	目視による確認	全線		
材料(品質)		材料承認及び使用資材調書及び空袋にて確認する。					

注) 上記施工管理基準に記載のない工種については、第1編 第1章1-1-26 施工管理基準の規定に従う。

## 塗装標準膜厚

塗装標準膜厚は、下表を標準とする。

塗装系	名 称	規 格	使用量 g/m <sup>2</sup>	塗膜厚 μm	合計厚 μm	摘要	
外面用・内面用塗装							
A 1	工場	長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*
		鉛系さび止めペイント	JIS K 5623 1種 ～K 5625	170	35		*
		〃	〃	170	35	85	*
	現場	長油性フタル酸樹脂(中塗用)	JIS K 5516 2種	120	30		
		〃 (上塗用)	〃	110	25	140	
C 1 2	工場	長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*
		鉛系さび止めペイント	JIS K 5623 1種 ～K 5625	170	35		*
		〃	〃	170	35		*
	2 現場	フェノール樹脂MIO塗料	第1編2-13-1、8項の規格	300	45	130	*
		塩化ゴム系塗料(中塗料)	JIS K 5639	170	35		*
		〃 (上塗料)	JIS K 5639	150	30	195	
D 工場	長ばく型エッチングプライマー	JIS K 5633 2種	130	15		*	
	タールエポキシ樹脂塗料 1種	JIS K 5664 1種	360	120		*	
	〃	〃	360	120	255	*	
塗り替え用							
a 1 現場	現場	鉛系さび止めペイント	JIS K 5623 1種 ～K 5625	140	(35)		
		〃	〃	140	(35)		
	1	長油性フタル酸樹脂(中塗用)	JIS K 5516 2種	120	(30)		
		〃 (上塗用)	〃	110	(25)	(125)	
b 1 現場	現場	鉛系さび止めペイント	JIS K 5623 1種 ～K 5625	140	(35)		
		〃	〃	140	(35)		
	1	フェノール樹脂MIO塗料	第1編2-13-1、8項の規格	250	(45)		
		塩化ゴム系塗料(中塗料)	JIS K 5639	170	(35)		
		〃 (上塗料)	〃	150	(30)	(180)	
c 1 現場	現場	変形エポキシ樹脂下塗り塗料	第1編2-13-1、10項の規格	240	(60)		
		〃	〃	240	(60)		
		〃	〃	240	(60)		
	1	ポリウレタン樹脂中塗り塗料	第1編2-13-1、11項の規格	140	(30)		
		ポリウレタン樹脂上塗り塗料	第1編2-13-1、12項の規格	120	(25)	(235)	

注1. 塗料使用量: 摘要欄の\*印はスプレー塗りを、無印はハケ塗りを示す。

注2. 塗り替え用は塗料使用量(使用前、使用后)で検収する。なお、塗装厚は参考として( )書で示す。